

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

石狩管内 千歳市立祝梅小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、地元に住むアイヌ文化を伝承している方々からアイヌの人たちの歴史や文化を学ぶ時間を設けるとともに、児童が日常的にアイヌ文化に触れることができるよう、アイヌ文化に関連する本の貸出コーナーや、学習の成果やアイヌ文化に関連する資料を展示したアイヌ学習室「ウレシパ トゥンプ」を設置しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

前年度の学習を踏まえるとともに、「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、学年ごとに発達の段階に応じたテーマや探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

第3学年は地域の方から寄贈されたアイヌの人たちの文化を紹介する本や動画で千歳のサケとアイヌの人たちの文化とのかかわりについて学びました。第4学年は副読本を利用したり、北海道博物館を訪問したりしてアイヌの人たちの生活様式等について学びました。第5・6学年は公益財団法人アイヌ民族文化財団からアイヌ文化活動アドバイザーを招聘し、アイヌ語についての講義を受けたり、サケの活用方法について実習をしたりしました。このように、各学年でテーマを設定して、様々な視点で情報を集めました。

(3) 整理・分析

アイヌの人たちの歴史や文化等について、集めた情報の整理・分析を行い、身近な場所にアイヌの人たちの歴史や文化とのかかわりがあることや、アイヌの人たちの文化を大切にしていくことについて学びました。

(4) まとめ・表現

各学年で調べた内容を壁新聞や画用紙にまとめ、校内のアイヌ学習室「ウレシパ トゥンプ」に掲示するとともに、学んだことを学級や学年内で発表し合い、アイヌの人たちの歴史や文化等について理解を深めました。

②児童の感想等

- ・アイヌの人たちの文化に興味をわき、夏休みに博物館めぐりをしました。
- ・これまで知らなかったことをゲストティーチャーに教わり、興味をもちました。
- ・サケの解体の時、自分では思いつかないような利用方法を教えてもらいました。



【ゲストティーチャーによる講義の様子】



【サケの活用方法を学ぶ実習の様子】



【アイヌ学習室「ウレシパ トゥンプ」】

■取組の成果（○）と課題（●）

- アイヌの人たちの歴史・文化等に関するアンケートで「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心が高まった」と回答した児童の割合が77%から88%に、「北海道や自分たちの住んでいる地域をもっと好きになった」と回答した児童の割合が95%から98%に、「今、住んでいる地域行事に参加しようと思う」と回答した児童の割合が68%から83%にそれぞれ増加しました。
- 昨年度から設置しているアイヌ学習室「ウレシパ トゥンプ」に工芸品や児童の調べ学習の成果を展示したり、各学年の取組を通信で紹介し全校で共有したりしたことにより、アイヌの人たちの歴史や文化等について多面的に学ぶことができました。
- アイヌの人たちの歴史や文化等をより身近に学ぶことができるよう、総合的な学習の時間と他の教科との関連を一層図る必要があります。